

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

◆構成メンバー（13名）

○地域の代表（6名）

※地域コーディネーターも兼任

コミュニティセンター長、自治区長会代表

まちづくり協議会長、青少年育成会議支部長

学校ボランティア代表（2名）

○家庭の代表（2名）

PTA会長、母親代表

○学校の代表（3名）

校長、教頭、教務主任

(2) 協議会の内容

<第1回> 6月29日

- ・活動方針、教育課題の把握
- ・地域との連携行事について

<第2回> 2月28日

- ・学校評価の検討
- ・年度末・年度はじめの学校行事
- ・雄島地区まちづくり協議会との連携

(3) 協議会における成果と課題

- 子ども達の実態と今後の方針や活動に関して話し合いの場を持てたことは、よりよい連携を進めていく上で大変意義があった。
- 子ども達のために、雄島地区まちづくり協議会の方をはじめ地域の方々や保護者の方々と今後更なる連携を図るためには、まず、教職員が地域に出かけ地域を知ることから始める必要がある。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の自然を生かした体験活動を通して、①友達との協力や助け合いの大切さを学ぶ、②コーディネーターをはじめ保護者ボランティアの協力を得て、活動が成り立っていることを知り、感謝の心を育てる。③自然に触れることで、自然に親しみ、豊かな森と海に囲まれた身近な地域の自然を再認識し、郷土の理解と地域への愛着や誇りを育て、自分たちが住む地域を愛する児童の育成を目指す。

(2) 活動の実際

①雄島地区の森林探索活動（たてわりウォークラリー）[1年生～6年生]

5月8日に雄島小学校区内の森林地域を含むコースを利用して実施した。異学年の縦割り班で、グループを組んでクイズなどの課題に取り組みながら約2時間コースを歩いた。森林内は雑木林や雑草が生い茂り、歩きにくい環境であったが、高学年児童が中心となって助け合いながら行動することで絆を深める一助となった。また、森林を歩くことによって、地元に残る自然豊かな環境を再認識することができた。



②磯の生物観察体験学習[3年生]

7月2日に地元の崎海岸で磯の生物観察体験学習を行った。児童は磯の海に潜り水中めがねで、これまで見たことがない生物を見たり、ふだん意識しない生物を観察したりして、新たな驚きや喜びを感じていた。この体験学習では地元の崎環境保全グループから補助・協力を得ている。児童は珍しい磯の生物を観察したことで、海の自然を再認識して、地元の素晴らしさを感じていた。



③サーフィン体験活動[6年生]

7月16日に三国サンセットビーチにおいて実施した。6年生が体験活動したが、昨年度5年生時に学校プールで、ボディボード体験を経験しており、ボードに慣れていた。当日は専門のインストラクターから技術指導を受けた。この体験活動では、雄島地区まちづくり協議会から補助をいただいている。児童は地域の方に感謝しつつ、サーフィンができる海が身近にあり、地域への愛着や誇りを意識することができた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・体験活動の企画段階で助言
- ・活動のボランティアとして協力
- ・関係機関との連絡・調整
- ・雄島まちづくり協議会と学校との橋渡し
- ・体験活動後の評価

(4) 特に工夫した事項

- ・雄島地区まちづくり協議会など活動でお世話になる方との事前打合せの時間の確保
- ・活動後のふり返りの時間の確保と来年度の活動に向けての意見交換の場の設定

(5) 成果と課題

これらの体験活動や体験学習を通して、児童の地元地域への関心や愛着の心が育ってきている。児童アンケートでも、「地域での校外学習は、よくわかり、楽しい」の項目で、肯定的評価が昨年度の調査よりさらにポイントが上昇し、99%となった。また、保護者アンケートでは「学校は積極的に地域の施設や人材などを活用して体験活動等を行っている」の項目で、肯定的評価が昨年度と同じで96%となっており、体験活動が高い評価を得ている。

児童の体験活動や体験学習の様子や成果について、校内や保護者向けに発信しているが、地元地域への発信が弱く、今後の課題である。

尚、これらの体験活動はマスコミ（新聞やテレビ）の取材を受け、新聞記事やニュース番組で取り上げていただき、児童や保護者は客観的な視点で、これらの体験を認識することができた。

今後は、児童の実態や付けさせてい力を明確にししながら、活動をさらに見直したり、他の体験活動を取り入れたりするなどして、児童がよりいっそう地域を愛し、進んで関わっていこうとする態度を育てていきたい。

(様式3)